

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

分担研究報告書

1. 専門職の事業所への配置を目的とした職業紹介などのモデル事業

研究代表者 菊谷 武（日本歯科大学 教授 口腔介護・リハビリテーションセンター長）

研究分担者 植田耕一郎（日本大学歯学部 教授 摂食機能療法学講座）

村田貴俊（日本歯科大学 衛生学講座）

研究要旨

本研究は、福岡県および愛知県歯科衛生士会において、歯科衛生士等の専門職の事業所への配置を目的とした職業紹介などをモデル事業として実施した。平成 22 年度はその成果と課題を分析することを目的とし、1) サービス実施人材育成事業、2) 介護保険事業所へのサービス実施啓発事業、を行った。モデル事業として、歯科衛生士の研修事業、通所事業所に対してアンケートの実施、パンフレットの送付、相談窓口の開設、事業所への説明会、事業所への出張を実施したところ、歯科衛生士の研修事業への参加は多く、人材育成の効果がみられた。事業所のニーズも高まったが、実際の雇用については課題があることがうかがわれた。職業紹介などのモデル事業を継続し、その成果と課題を分析することが必要と考えられた。

研究協力者

久保山裕子（福岡県歯科衛生士会）

天本和子（福岡県歯科衛生士会）

池間カヨコ（福岡県歯科衛生士会）

橋爪和恵（福岡県歯科衛生士会）

池山豊子（愛知県歯科衛生士会）

田村文誉（日本歯科大学附属病院口腔介護・リハビリテーションセンター）

白潟友子（日本歯科大学附属病院口腔介護・リハビリテーションセンター）

具体的には、1) サービス実施人材育成事業、2) 介護保険事業所へのサービス実施啓発事業である。前者は、歯科衛生士および施設のサービス実施担当者に対する研修会や実地研修の開催である。さらに、後者は、各事業者への出張研修や口腔機能向上サービスのノウハウを伝える講習会の開催などである。

A. 研究目的

「口腔機能の向上」サービスは普及・定着していない状況である。この状況について、「人材の確保・育成」が課題のひとつとして挙げられている。そこで、本研究においては、歯科衛生士等の専門職の事業所への配置を目的とした職業紹介などをモデル事業として実施し、その成果と課題を分析することを目的とした。

B. 研究方法

1. 福岡県におけるモデル事業

1) サービス実施人材育成事業

①歯科衛生士に対する事業

口腔機能向上サービスが提供できる歯科衛生士の人材育成のための研修会を行い、その後、求職希望者に対しては施設現場での実践研修を実施した。さらに、歯科衛生士バンクへの登録呼びかけを行った。

（資料 1 参照）

（資料 2 参照）

2) 介護保険事業所へのサービス実施啓発事業

①事業所に対する事業

口腔機能向上の情報提供のためのパンフレット送付、口腔機能向上加算を実施するうえでの問題点抽出のためのアンケート、口腔機能向上サービス実施施設への見学会実施、を行った。

(資料3、4参照)

②人材派遣モデル事業

歯科衛生士の求職者に対しては、事業所からの求人情報を提供し雇用に結び付ける試みを行った。また事業所に対してのサービスとしては相談窓口を開設し、歯科衛生士の雇用形態や雇用条件などの提案を行い、普及に繋がった。

(資料5参照)

2. 愛知県におけるモデル事業

1) 介護保険事業所への口腔機能向上サービス普及啓発に関する調査

愛知県下の通所介護事業所および通所リハビリ事業所、合計672事業所に対して口腔機能向上のリーフレット(平成22年度研究事業にて作成)を配布し、口腔機能向上加算に関する実務講習会開催の希望がある87事業所のうち21事業所にて講習会を開催し、アンケートを実施した。

【実務講習の方法】

指導歯科衛生士と経験のない研修受講歯科衛生士が二人一組となって各事業所に2回ずつ訪問し、口腔機能向上加算に伴うアセスメントの方法プランニングおよびトレーニングの実際などを利用者対象として実地講習をした。

指導歯科衛生士は実地講習を始めるにあたって各事業所を事前訪問し、担当者とは詳細について打ち合わせを行った。

2) 歯科衛生士の人材育成に関する事業

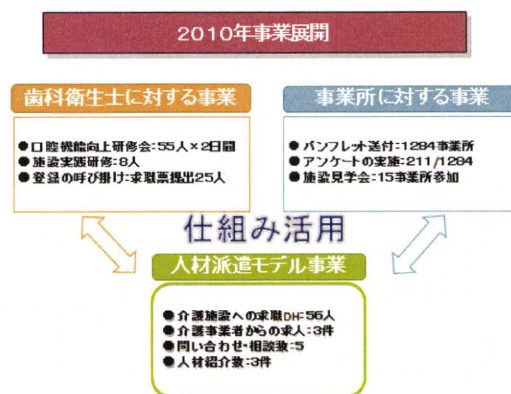
指導歯科衛生士および研修受講歯科衛生士マニュアルを作成し、OJTを実施するにあたって歯科衛生士に対して(1)指導歯科衛生士向け研修、(2)研修受講歯科衛生士研修会、(3)標記研究事業最終合同研修会研修、を実施し、アンケート調査を行った。

(倫理面への配慮)

対象となる事業所および個人に対し、本研究の主旨を口頭と文書にて説明し、同意を得た。得られたデータは個人情報保護の観点から厳重に管理した。

C. 研究結果

1. 福岡県におけるモデル事業



1) サービス実施人材育成事業

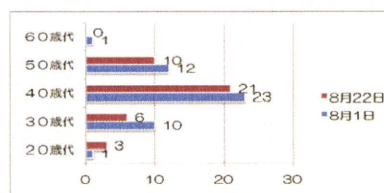
①歯科衛生士に対する事業

(1) 口腔機能向上研修会:2日間×6時間
参加者:1日目47名・2日目41名

(資料6参照)

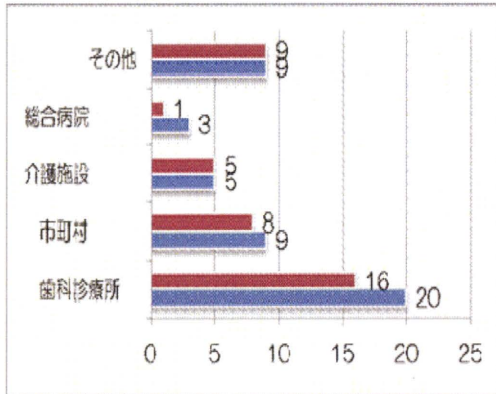
{2010年口腔機能向上研修会受講者アンケート結果}

1. あなたの年齢は

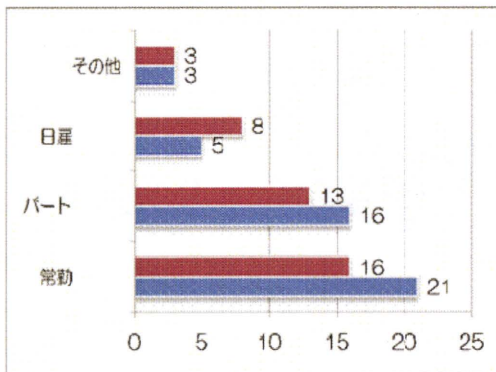


2. あなたのお住まい、勤務先は

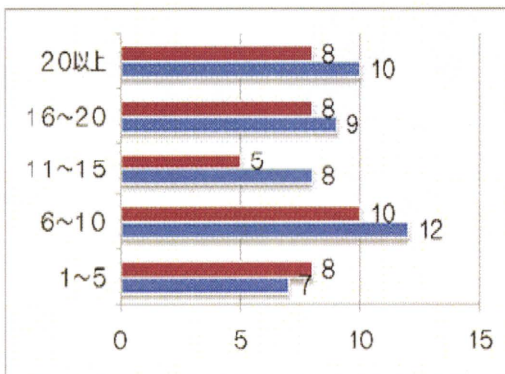
3. あなたは現在どのようなお仕事に就いていますか



4. あなたの勤務形態はどのようなものですか

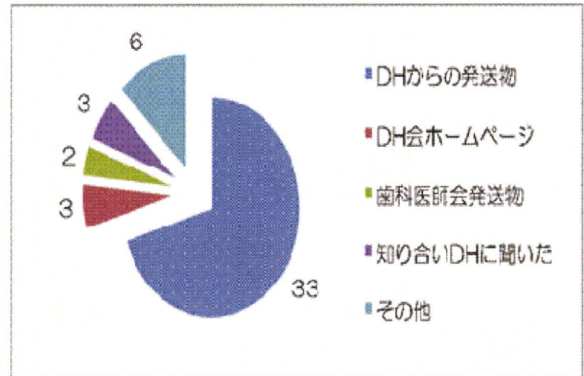


5. あなたの歯科衛生士としての勤務（経験）年数は

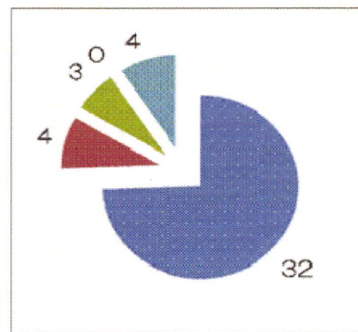


6. 今回の研修会はどこで知りましたか

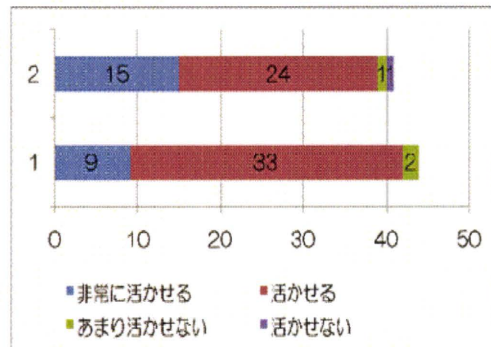
1日目



2日目



7. 今回の研修は今後の仕事に活かすことができるとおもいますか

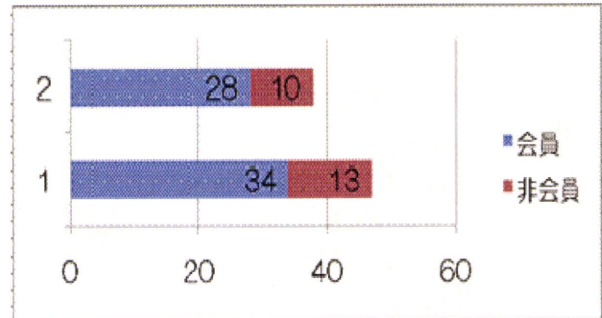


8. 今回の研修会についてのご意見等を自由にご記入ください。今後どのような内容の研修会を希望しますか。

- 口腔ケア実施の仕方、やり方等
- 施設等でのスタッフとの関わり方、患者への対応（長期間）についての話をもう少し聞きたい

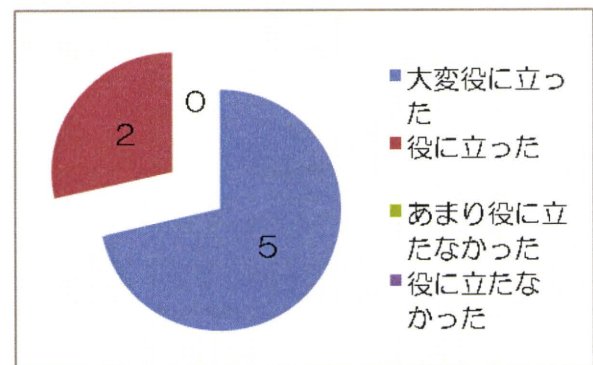
- 看護の知識や口腔ケアの実習（様々な症例で）
- 保険事務の算定等内容等の研修会があればよい（2年ごとに改正になるので）
- レントゲンの診断（11、12月にある研修会に参加できないので）わかりやすく説明を聞きたい
- 色々な重症高齢者の口腔ケア実習があればよいと思う
- 要介護者の口腔清掃の実習
- 障害者の方へのケアの研修会を希望します
- 歯科医院における感染症対策
- 他職種の方の話（相互理解できるようになりたい）
- ターミナルケア
- ブラッシング指導、SRP
- 感染症予防等
- ペリオ研修があればよい
- もっと媒体を見せて、作り方を教えて欲しい
- 高齢者関連の内容
- 施設等での研修訓練
- 楽しい媒体の紹介ややり方等をもっと学びたいと思う
- 机上での勉強も大切ですが、身体を動かして相互実習の機会が増えたらよいと思う
- DH向けの口腔ケアの実習、指導等
- 口腔リハビリの実技について。開口、閉口障害
- 誤嚥についてのポイントを絞った研修等
- 全身疾患による麻痺のある方の口腔ケア
- 高齢者の方とのコミュニケーションの取り方

9. あなたは福岡県歯科衛生士会の会員ですか

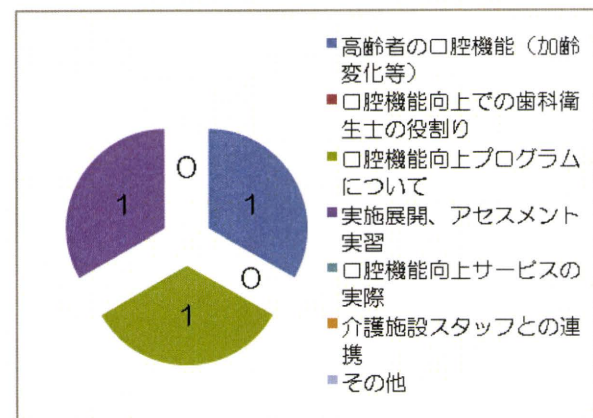


(2) 施設実践研修：参加者 8 人
(資料 7 参照)

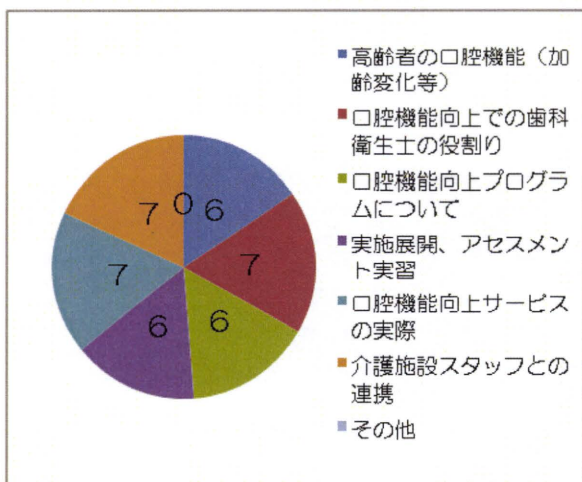
1 口腔機能向上研修会は役に立ちましたか



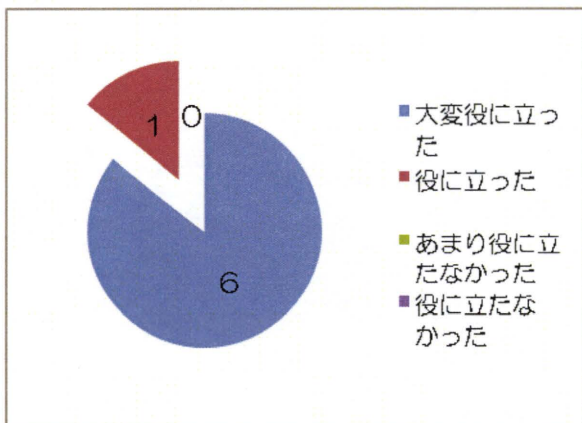
2 実践研修においてもっと知りたかったこと



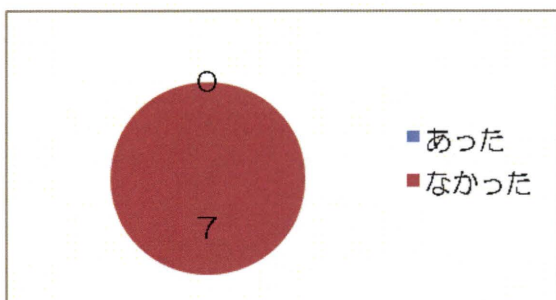
3 実践研修において役に立ったこと



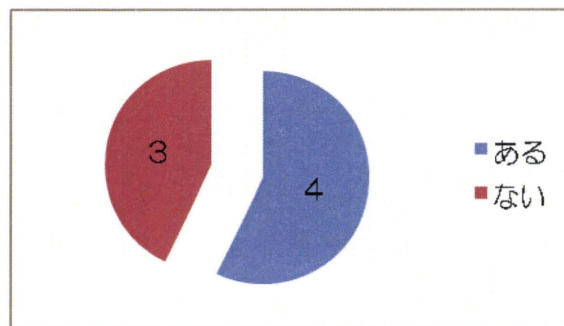
4 施設での現場研修会は役に立ちましたか



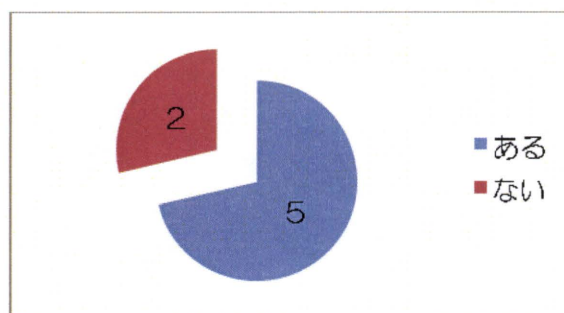
5 現場で困ったことはありましたか



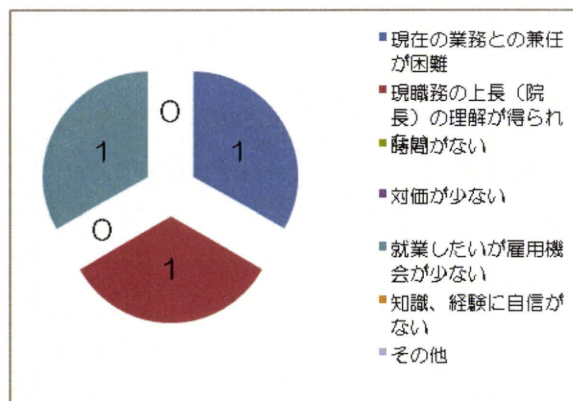
6 これまで介護予防に携わったことが



7 今後携わりたい・予定がある



携われないと答えた理由



(3) 登録の呼び掛け：求職票提出 25人

2) 介護保険事業所へのサービス実施啓発事業

① 事業所に対する事業

a. パンフレット送付：1284事業所

b. アンケートの実施：211/1284件

{アンケート結果}

目次

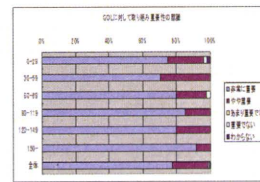
- I：属性**
- ①介護施設/リハビリ施設の比率
 - ②利用者数分布
- II：アンケート内容**
- ①重要性の認識
 - 1. QOLに対する重要性の認識
 - 2. 施設運営に対する重要性の認識
 - ②サービスへの取り組み状況
 - 1. 取り組んでいる施設
 - 携わっている職種
 - 利用者数
 - 実施上の課題点/利点
 - 2. 取り組んでいない施設
 - 取り組めない理由
- III：今後に向けて**
- ③その他口腔ケアへの取り組み
 - 1. 現状で実施していること
 - 2. 実施にあたる職種
 - ④併設された入所施設の状態
 - 1. 実施比率
 - 2. 実施できていない理由



II：アンケート内容 ①重要性の認識

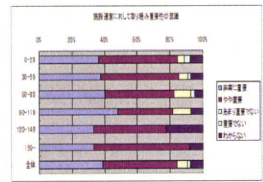
①-1. QOLに対する重要性の認識

「口腔機能向上」は高齢者の健康、QOLの維持・増進に重要だと思いますか？ N=205



①-2. 施設運営に対する重要性の認識

高施設を運営するうえで口腔機能向上の取り組みは重要だと思いますか？ N=205



1. 利用者にとって意義あることという認識は極めて高いが施設運営にあたっての重要性は相対的には低い。(高い水準ではある)
2. 施設運営に対する重要性という意味では、わからないという回答も少なからず存在し開拓の余地がありそう。

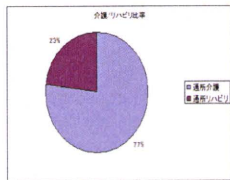
考察

I：属性

①：介護/リハビリ施設の比率

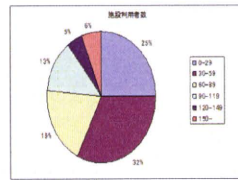
貴施設の事業形態をお答えください

- 1：通所介護
- 2：通所リハビリテーション



②：利用者分布

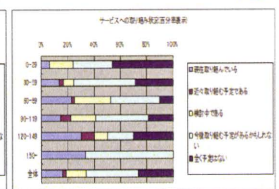
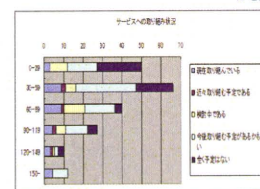
貴施設に登録されている利用者の方は何人いますか？



II：アンケート内容 ②サービスへの取り組み

②：サービスへの取り組み状況

「口腔機能向上加算」を算定したサービスに取り組んでいますか？ N=205

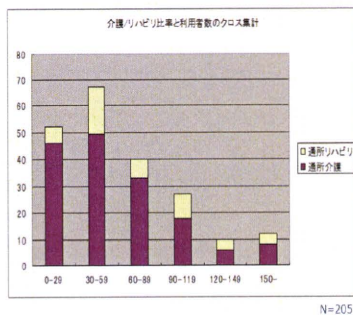


1. 現在取り組んでいる比率は全体でも20%を切っている。去年21.1%の回答だったことを考えると低下か、ほぼ横ばい。導入は進んでいない。
2. 施設の規模と取り組み状況には正の相関関係があり、規模が大きい施設ほど「口腔機能向上加算」を算定したサービスに取り組んでいる。(相関係数：0.909 ※施設利用者数と「現在取り組んでいる」を選択した件数で算出)

考察

I：属性

事業形態と利用者数のクロス集計

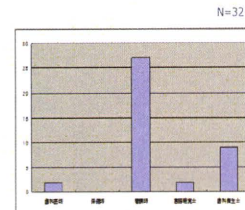


II：アンケート内容 ②サービスへの取り組み

現在取り組んでいる施設に対する質問

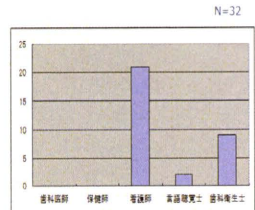
アセスメントする職種

アセスメント(事前、事後の専門職種として)はどなたがしていますか？ N=32



個別計画を立案する職種

口腔機能向上の個別計画はどなたが立てていますか？ N=32

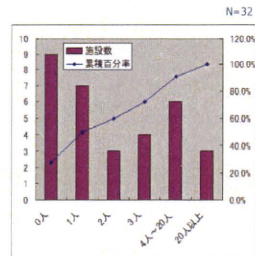


II : アンケート内容 ②サービスへの取り組み

現在取り組んでいる施設に対する質問

サービス利用者数

「口腔機能向上加算」のサービスを受けている利用者の方は何人いますか？



1. 取り組んでいる施設でも、70%以上の施設では、サービス利用者は3人以下。
2. 全体の28%はサービスに取り組んでいて、準備ができていたり、過去に提供しているにも関わらず、利用者数が0。施設側の取り組み状況ではなく、利用者側で何らかの障壁があり利用者が伸びていない可能性がある。

考察

II : アンケート内容 ②サービスへの取り組み

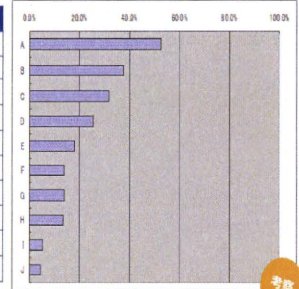
現在取り組んでいない施設に対する質問

サービスを実施していない理由

口腔機能向上加算サービスを実施していない理由をお聞かせください

N=173

| 仮差 | 件数 |
|------------------------------|----|
| 指導型研修や衛生士が不足でない | 81 |
| 現状のスタッフ数でこれ以上のサービスをすることはできない | 65 |
| 口腔ケアを行うための職員が確保できない | 56 |
| 介護報酬割増が低い | 44 |
| 手続が複雑である | 31 |
| サービス内容についてわからない | 24 |
| 方針が崩壊し実践が難しい | 24 |
| 口腔機能向上加算の対象者がいらない | 23 |
| 口腔機能向上加算の本人・家族が理解できない | 9 |
| 口腔機能向上サービスの効果についてわからない | 8 |



考察

半数の施設が歯科衛生士の確保ができないことを理由としてあげている。上位3件はすべて人材に関する問題である。

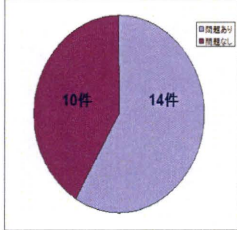
II : アンケート内容 ②サービスへの取り組み

現在取り組んでいる施設に対する質問

問題が起こっているか？

サービスを実施するなかで、問題となったことがありますか？

N=24



問題の内容

- 利用者の要望は明確でケアマネの取組む
- 利用者によって対応内容が異なるためケアマネの負担が大きい(評価に)
- 利用者自身が食事摂取量に関する知識が乏しいため、食事指導が難しいケースがある
- 本人の認知や理解の進捗が不十分な場合あり
- 食事指導で衛生士本人のケアマネと連携する必要があるが、ケアマネが食事指導の重要性を十分に理解していない
- ケアマネが食事指導の重要性を十分に理解していない
- 介護報酬の割増が低い
- 施設側の数、サービスに合わせた職員
- 食事の仕度
- 食事
- 歯科衛生士ではない、看護師、介護士が担当する一方で、歯科衛生士に任せている(歯医、歯科医など)
- サービス開始以降、食事摂取低下に悩まされている施設
- 個別の指導をする時間確保が難しいと感じる
- 口腔機能向上加算の必要性、意義づけ、実践の必要性の理解が不十分
- ケアマネや歯科衛生士の知識不足による指導が難しい、また、ケアマネが食事指導の重要性を十分に理解していない
- 指導が本人への口腔ケア
- 施設スタッフの不足によるケアマネの負担

II : アンケート内容 ②サービスへの取り組み

現在取り組んでいない施設に対する質問

サービスを実施していない理由

口腔機能向上加算サービスを実施していない理由をお聞かせください

その他の回答

- ※ 実施を望んでいない。業務は導入するが実施しない施設もある。施設側の意向が強い。口腔機能向上加算の必要性、意義づけ、実践の必要性の理解が不十分
- ※ 口腔ケアを行うための職員が確保できない
- ※ 介護報酬割増が低い
- ※ 手続が複雑である
- ※ サービス内容についてわからない
- ※ 方針が崩壊し実践が難しい
- ※ 口腔機能向上加算の対象者がいらない
- ※ 口腔機能向上サービスの効果についてわからない
- ※ ケアマネの不足によるケアマネの負担
- ※ 施設側の数、サービスに合わせた職員
- ※ 食事
- ※ 歯科衛生士ではない、看護師、介護士が担当する一方で、歯科衛生士に任せている(歯医、歯科医など)
- ※ サービス開始以降、食事摂取低下に悩まされている施設
- ※ 個別の指導をする時間確保が難しいと感じる
- ※ 口腔機能向上加算の必要性、意義づけ、実践の必要性の理解が不十分
- ※ ケアマネや歯科衛生士の知識不足による指導が難しい、また、ケアマネが食事指導の重要性を十分に理解していない
- ※ 指導が本人への口腔ケア
- ※ 施設スタッフの不足によるケアマネの負担

II : アンケート内容 ②サービスへの取り組み

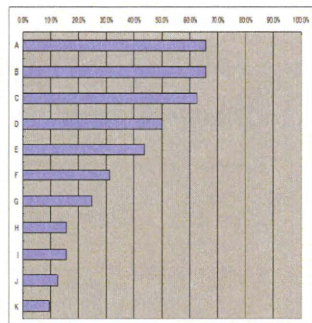
現在取り組んでいる施設に対する質問

効果があったこと

サービスを実施する中でよかったことや効果があったことなどありましたか？

N=32

| 仮差 | 件数 |
|-------------------------------|----|
| A: 口腔的・衛生面の意識が芽生えた | 21 |
| B: 食事の習慣ができた | 21 |
| C: 利用者全体として食後の口腔清掃に取り組む習慣ができた | 20 |
| D: ムセの軽減や歯科治療のすまわせた | 16 |
| E: うがいの習慣ができた | 14 |
| F: 嚥下障害の改善が見られた | 10 |
| G: 誤嚥性肺炎が防止できた | 8 |
| H: 口腔乾燥症が軽減した | 5 |
| I: 嚔物が減少した | 5 |
| J: 唾液量の量が増えた | 4 |
| K: かみ合わせが良くなった | 3 |



その他: 食事量、水分摂取量の増加率がよく出るようになった

②サービスへの取り組み

知識

利用者によって状態が異なるため評価の方法統一しては難しい
専門的な知識が必要
認知症の方への口腔ケア
ケアマネージャーの口腔ケアに対する知識が乏しいため、本人・家族が望む口腔ケアの内容が実施しにくい
口腔機能向上加算の必要性、意義づけ、実践の必要性の理解が不十分
歯科衛生士ではない、看護師、介護士が担当する一方で、歯科衛生士に任せている(歯医、歯科医など)
施設側の数、サービスに合わせた職員
食事指導で衛生士本人のケアマネと連携する必要があるが、ケアマネが食事指導の重要性を十分に理解していない

マンパワー

衛生士だけでなく歯科医師の活用が必要
個別の指導をする時間確保が難しいと感じる
歯科衛生士ではない、看護師、介護士が担当する一方で、歯科衛生士に任せている(歯医、歯科医など)
施設側の数、サービスに合わせた職員
食事指導で衛生士本人のケアマネと連携する必要があるが、ケアマネが食事指導の重要性を十分に理解していない

システム

サービス開始以降、食事摂取低下に悩まされている施設
本人の認知や理解の進捗が不十分な場合あり

設備

施設側の数、サービスに合わせた職員

技術

食事の仕度

その他

ケアマネや歯科衛生士の知識不足による指導が難しい、また、ケアマネが食事指導の重要性を十分に理解していない

II：アンケート内容 ②サービスへの取り組み

現在取り組んでいない施設に対する質問

独自の取り組み

- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。施設改善が目的で実施している施設が多い。口腔機能が低下、または低下傾向にある施設が多い施設が多い。
- 加算のありかによって取り組みが異なる施設が多い。
- 口腔ケアは医師の中心で行っている施設が多いが、看護師の役割も大きい施設が多い。
- 口腔ケアを行っているが、医師の役割も大きい施設が多い施設が多い。
- 口腔ケアを行っているが、医師の役割も大きい施設が多い施設が多い。
- 口腔ケアを行っているが、医師の役割も大きい施設が多い施設が多い。

人員 設備

ハートモニターの不足
 加算を実施している施設は多いが、ハートモニターが不足している施設が多い。また、加算を実施している施設は多いが、ハートモニターが不足している施設が多い。

口腔ケアを行っているが、医師の役割も大きい施設が多い施設が多い。

事務処理の効率化

- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。
- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。
- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。
- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。

利用者負担の問題

加算を実施している施設は多いが、利用者負担の問題がある施設が多い。

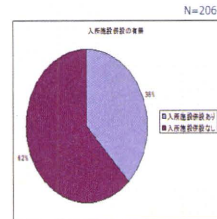
その他

- もっと口腔ケアがほしい施設が多い。
- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。
- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。
- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。
- 加算を実施しているが、重要視されていない施設がある施設は少ない。

II：アンケート内容 ④併設された入所施設の状況

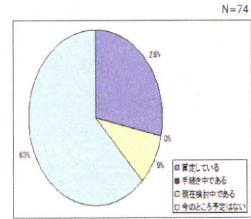
入所施設の併設有無

貴施設には入所施設が併設されていますか？



「口腔機能維持管理加算」の算定有無

本年度導入された「口腔機能維持管理加算」を算定していますか？



II：アンケート内容 ③その他口腔ケアへの取り組み

「口腔機能向上加算サービス」以外の取り組み

貴施設で日常的に行なっている口腔ケアの取り組みはありますか？（複数回答可）

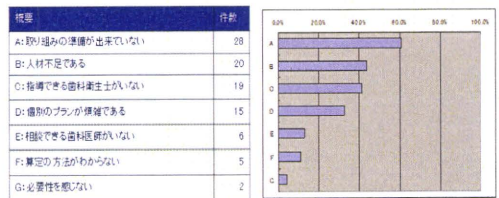
その他の回答

- ★定期歯科受診の促進
- ★食事はありますがAM10:30ごろに実施しています
- ★食事の提供はないが体操などは行っている
- ★食事提供がないので、食前体操というものはないが、通所リハビリ開始時の集団体操で取り入れることあり。
- ★個別の嚥下リハビリの実施
- ★言語聴覚士による口腔機能のリハビリテーション
- ★歌唱指導等における発声練習を含む
- ★外部より歯科医や技工士の方からの講習会などをしていただいています（年1〜2回）
- ★STを中心に全員の口腔機能評価を積極的に行っている

II：アンケート内容 ④併設された入所施設の状況

算定しない理由

「口腔機能維持管理加算」の算定しない理由はなんですか？（複数回答可）



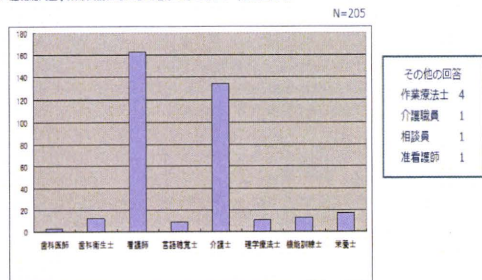
その他の回答

- ★入所施設は人員設備etc.環境が揃うための配慮でできません。
- ★増設施設であり加算がない
- ★手配が足りぬには責任が重い
- ★施設がない
- ★グループホームのための加算項目がない
- ★介護報酬単価が低い

II：アンケート内容 ③その他口腔ケアへの取り組み

口腔ケアにあたる職種

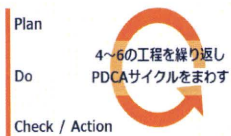
貴施設で口腔機能向上事業の実務にあたる職種はどなたですか？（複数回答可）



III：今後に向けて

今後進めていく、もしくは議論が必要なのは以下のようなことと考えます。

1. ゴールの設定
2. KPIの設定
3. 課題のブレイクダウン(要素分解)
4. 解決策のアイデア出しと計測方法の検討
5. 実施
6. 効果測定と修正施策



Ⅲ：今後に向けて

今後進めていく、もしくは議論が必要なのは以下のようなことと考えます。

1、ゴールの設定

この事業のゴールはどのようなものだろうか？
またよかれではない何かの形だろうか？

- A. 口腔ケア実施サービスは多くの人を受けられること
→ 既に達成出来ていることもあることがあった
- B. 口腔機能向上加算を多くの事業所で利用すること
→ 加算するものの認知
→ 採算性/全額受取での形での実施が必要。

C. DHの活躍の場を確保すること
→ 通所施設ではDHだけでなく、いろいろな口腔ケアは
多くの事業所で行っていたことがあったので
何らかの対策が必要

2、KPIの設定

どの指標が実現したらゴールを達成したことになるのか？
目標に応じて設定すべきKPIが変わってくる。

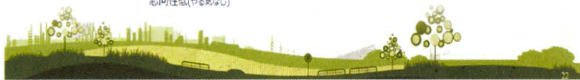
- Ex)
- Aがゴールならこのアンケートの定着率で～点以上
- Bがゴールなら加算があがってくる加算の数が～点アップ
- CがゴールならDHの現状調査で～人が施設で勤務



Ⅲ：今後に向けて

3、課題のブレイクダウン(要素分解)

例えば口腔機能向上加算を多くの事業所で利用することが課題だとするとこんな軸で説明ができると思います。



Ⅲ：今後に向けて

4、解決策のアイデア出しと計測方法の検討

3までで抽出された課題、重点にすべきポイントにどのような解決策を打てばよいか。
また、解決策はどのように効果測定するか。

5、実施

スケジュールを検討し、実際に考えた施策を実行する

6、効果測定と修正施策検討

実施した内容が問題なかったか、効果を見出したのかを計測し、次の施策に活かす。



c. 施設見学会：13事業所参加

(資料8参照)

| 実施日 | 参加施設 | 参加者 |
|-----|------|-----|
| 7日 | 13 | 15人 |

{口腔機能維持管理加算}



助言をする対象者について説明している



スタッフの口腔ケアを見て歯科衛生士が助言している



口腔内の状態をアセスメントしている



アセスメントに基づくケアについて助言している

{口腔機能向上：通所施設での口腔機能向上サービス}



アセスメント



歯科衛生士と施設見学者



スタッフによる食前嚥下体操：歯科衛生士の助言で内容を考え、スタッフが媒体を作成



②人材派遣モデル事業

- a. 介護施設への求職DH：60人
 - b. 介護事業者からの求人：3件
 - c. 問い合わせ・相談数：6件
 - d. 人材紹介数：3件
- (資料9、10参照)

2. 愛知県におけるモデル事業

1) 介護保険事業所への口腔機能向上サービス普及啓発に関する調査

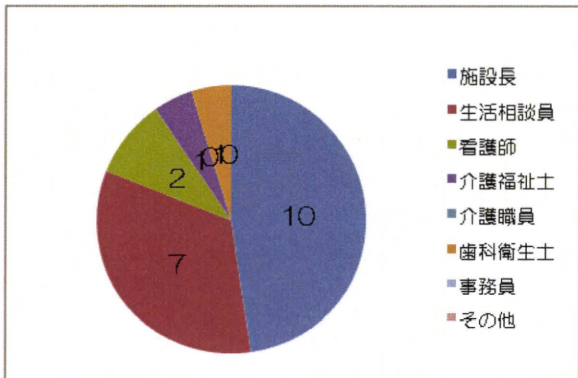
- 講習会開催事業所：21施設
- 指導歯科衛生士：18名
- 研修受講歯科衛生士：20名

(1) 講習会開催事業所向けアンケート調査 (重複回答)

1 回答をされる方の職名は

- ・施設長(管理者)
- ・生活相談員
- ・看護師
- ・介

介護福祉士・介護職員 ・ 歯科衛生士 ・ 事務員 ・ その他 ()

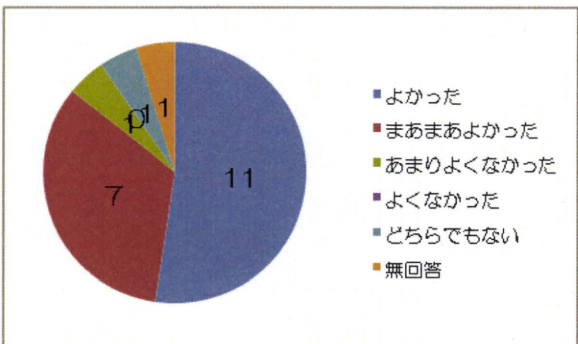


2 歯科衛生士の派遣を受けた感想をおきかせください。

・よかった ・まあまあだった ・あまりよくなかった ・よくなかった ・どちらでもない

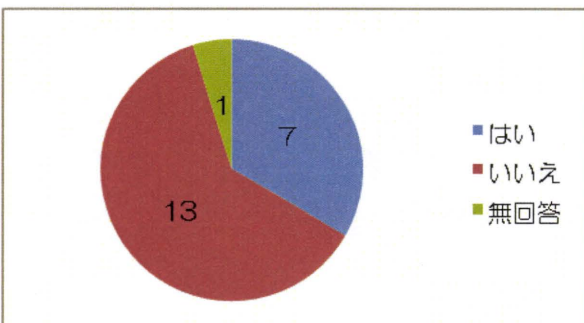
その理由もご記入ください

()



3 現在貴施設では口腔機能向上加算のサービスをおこなっていますか

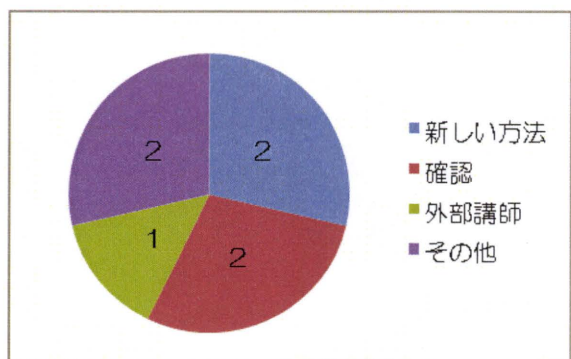
・ はい ・ いいえ



4 3 で「はい」と答えた方にお尋ねします。すでに実施していても歯科衛生士の派遣要請をした理由をおきかせください

- ・ 新しい方法があれば知りたいと思った
- ・ 不明な点を抱えながら実施しているの
で確認したかった
- ・ 外部の講師をいれることで他の職員の
理解を深めたかった
- ・ その他

()



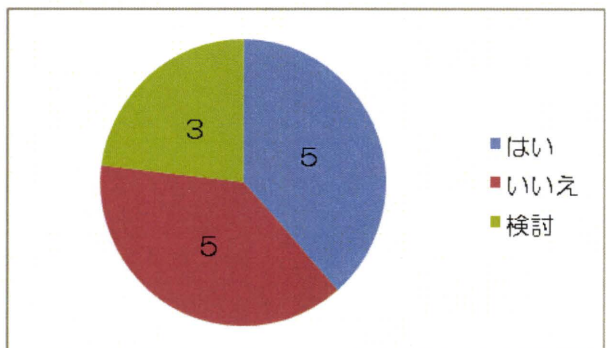
- 加算のみではなく、口腔ケアなどの方法も知りた
かった
- 歯科衛生士の雇用を考えているので

5 3 で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。

今後は加算を算定していきますか？

いいえの理由もお書きください

- ・ はい・ いいえ ()
- ・ 検討する



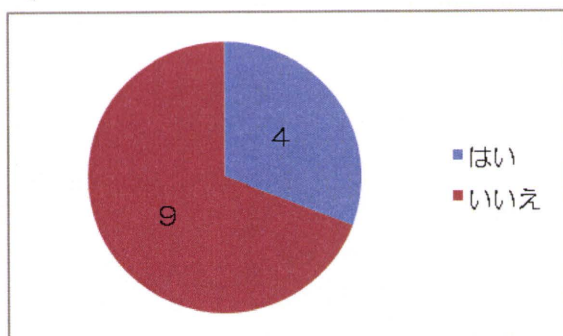
- 歯科衛生士がいないとできないと思う
- まだ自分のところではやれそうもない
- 今後の介護保険制度がどうなるか見ていから

6 貴施設に歯科衛生士を雇用したいと思
いますか？

- ・ はい
- ・ いいえ
- ・ 検討中

「はい」「いいえ」のそれぞれの理由も
ご記入ください

()



<雇用したい>

- 以前から施設に歯科衛生士を雇用したいと思って
いた
- 口腔ケアの大切さを痛感している
- 介護職員兼務で歯科衛生士が雇用できるといい
- 加算のためだけのパートで雇用したい

<雇用したくない>

- 人件費の捻出ができない
- 歯科衛生士業務のみでは仕事がないと思う
- 外部の人に教えてもらえるので、雇用することは
ない

(2) 指導歯科衛生士の人材育成に関する事業

①事業実績

(資料 11, 12 参照)

a. 指導歯科衛生士向け研修

a-1. 研究事業参加希望者説明会開催

日時 平成22年5月30日(日)

午後1時～4時

場所 愛知県歯科医師会館

参加者数 78名

(内訳 会員51名 非会員27名)

内容 本研究事業の説明および加算に関する
現状報告

a-2. 標記研究事業指導者研修会

日時 平成22年6月27日(日)

午後1時～4時

場所 愛知県歯科医師会館

参加者数 22名

内容 本研究における指導歯科衛生士の役割

b. 研修受講歯科衛生士研修会

日時 平成22年8月8日(日)

午後3時～5時

場所 愛知県歯科医師会館

参加者数 32名

内容 本研究事業主旨説明および口腔機能向
上の基礎知識

c. 標記研究事業最終合同研修会

日時 平成23年3月27日(日)

場所 ウィルあいち

参加者 上記bの参加者を対象とする

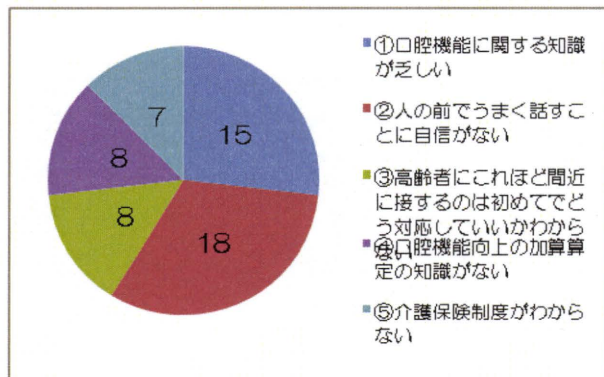
内容 OJTの効果について

事業所への雇用促進について など

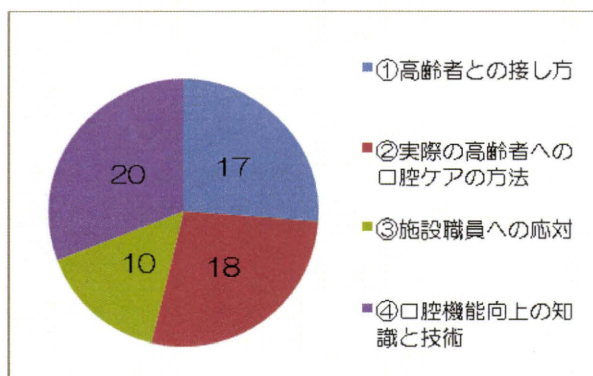
② 歯科衛生士向け研修アンケート結果

a. 研修歯科衛生士アンケート

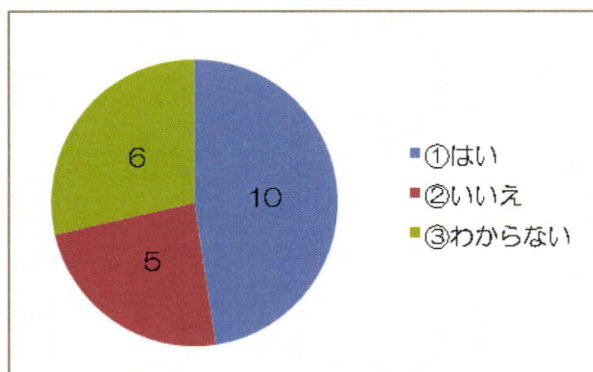
1. 事業について最も難しかったと思ったところ



2. 指導を受けてわかりやすかったと思ったところ

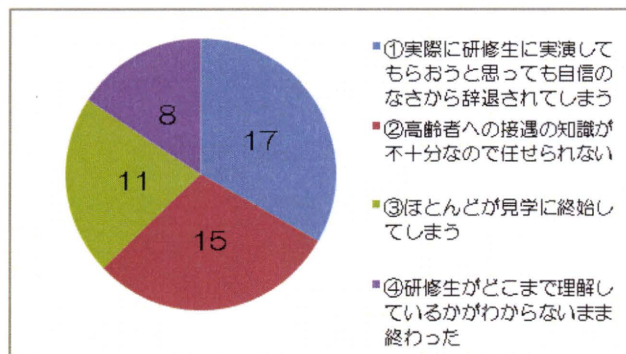


3. 今後求人があれば実際に現場で働きたいか

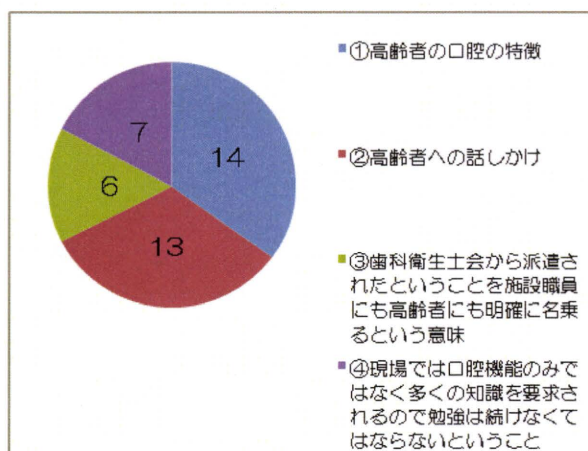


b. 指導歯科衛生士アンケート（重複回答）

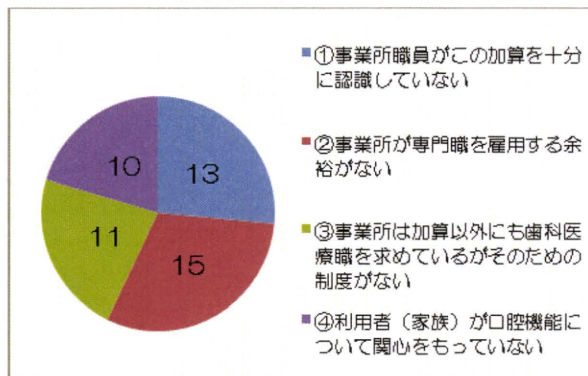
1. 指導するにあたって最も難しいと感じたところ



2. 指導をして理解できただろうと思われるところ



3. 介護現場で口腔機能向上を普及させるためには何が課題か



D. 考察

1. 福岡県におけるモデル事業

歯科衛生士の人材確保・育成については2年間で60人の求職登録者を確保できたが、事業所からの求人は少なく、紹介、就業に結びつくケースは少なかった。事業所へのパンフレット配布という一方的な情報提供の方法では、口腔機能向上サービスの普及効果は小さく、相談窓口に寄せられた相談内容やアンケート分析による問題点を解決できるシステムづくりや情報提供が必要と思われた。また口腔機能向上サービス提供施設の見学会に参加した13事業所に対しては、今後個別にアプローチを進め、さらなる問題解決を進めていく必要があると思われた。

2. 愛知県におけるモデル事業

本研究事業のOJT実施事業所を募ったところ県下672事業所中87事業所から希望があった。多くの事業所において口腔機能向上加算への関心が高まっていると感じた。本研究事業で対応できたのは21事業所であった。本研究事業のみでは対応しきれなかった事業所には愛知県歯科医師会が委託を受けた在宅歯科診療連携室事業から歯科衛生士を派遣するという形式でさらに16事業所において口腔機能向上加算に関するセミナーをOJTにて行った。

(1) 雇用促進について

事業所にはアンケートを実施し、本研究事業の評価をした。おおむね好評ではあったが、歯科衛生士の雇用促進には今ひとつの感があった。その要因は通所系事業所における人件費への厳しさが各事業所の回答にみられた。口腔機能向上加算の単位数と歯科衛生士の人件費が見合わない現状を訴える施設担当者の声も届いている。それでも口腔ケアの重要性は各施

設十分に認識しており、研究事業からの派遣以外にも歯科衛生士の事業所への派遣要請が引き続き望まれている。

(2) 歯科衛生士の人材育成について

OJTは指導者にも受講者にも不慣れなところがあり、十分満足のいく内容ではなかった。2回という回数の少なさも指導者側からも受講者側からも指摘された。事前にOJTの活用法について双方が学ぶ機会があればよかった、という感想もあった。

しかし現場を体験できた受講者の満足感は大きく、また自分の知識、技術の不足しているところを認識できたことはよかった、と感じている。同時にこういう現場があれば就業したいという受講歯科衛生士が多く、今後のさらなる研修受講にて口腔機能に関する業務を受け持てる人材は育成できると思われた。

E. 結論

歯科衛生士等の専門職の事業所への配置を目的とした職業紹介などをモデル事業として実施した。その結果、歯科衛生士の人材育成、事業所のニーズの増加について一定の効果が認められたが、雇用に結びつけるには課題が残された。よって、今後は課題分析と具体的な対策の指針を示し、積極的な事業展開の必要性が推察された。

F. 研究発表

1. 学会発表

- 1) 久保山裕子, 川辺直子, 天本和子, 高野ひろみ, 菊谷 武: 口腔機能向上のための人材育成とサービス提供事業者への人材紹介システム. 第21回日本老年歯科医学会学術大会, 新潟, 2010. 6
- 2) 由井 悟, 渡辺秀昭, 鷺見浩平, 阿久津仁, 志村隆司, 盛池暁子, 丸山幸江, 花形哲

夫，田村文誉：歯科医師会が実施した口腔機能向上プログラムの効果. 第 21 回日本老年歯科医学会学術大会，新潟，2010. 6

- 3) 池山豊子，小澤浩美，菊谷 武：「口腔機能向上サービス」の普及に向けた無料職業紹介事業活用歯科衛生士人材バンク. 第 21 回日本老年歯科医学会学術大会，新潟，2010. 6

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし

初心者のための口腔機能向上研修会のご案内

(介護予防のための口腔機能向上について)

近年、医療、福祉の現場で口腔機能の重要性が認められるようになってきました。それにともない病院や介護施設、地域等において、それらに対応できる人材が求められています。

今回は介護保険における口腔機能向上サービスについての研修会を企画しています。通所事業所で要介護者、要支援者に、また市町村で特定高齢者に口腔機能向上サービスを提供するためのプログラムです。業務に関わるアセスメント・プランニング実習や書類作成も行います。皆さんの参加をお待ちしています。

※2回シリーズでの申し込みとなります。

※日本歯科衛生士会会員の方は専門研修（基礎研修）の単位が取得できます。（会員証をお持ちください）

※後日、求職者のための施設での実践研修を予定しています。

| | 日時 | 内容 | 単位 | 講師 | 会場 |
|-----|---|---|---------|-------------------------------------|---|
| 第1回 | 2010年 8月1日 (日) 9:30~ 16:30 | ◎介護予防での歯科衛生士の役割 制度と歯科衛生士の役割 | Bf 1 | 九州歯科大学口腔保健学科 教授 千綿 かおる先生 | 福岡県 歯科医師会館 福岡市中央区大名1丁目12番43号 |
| | | ◎口腔機能向上サービスの実際 | Bf 2 | 福岡県歯科衛生士会 江崎カヨコDH (日本DH会認定DH) | |
| | | ◎高齢者の口腔機能 Ⅰ 加齢変化 Ⅱ 摂食嚥下障害の基礎知識 | Ab 3 | 原土井病院 岩佐 康行先生 | |
| 第2回 | 2010年 8月22日 (日) 9:30~ 16:30 | ◎アセスメント・個別計画 アセスメント実習 口腔機能向上に係る書類作成 | Bf 3 | 福岡県歯科衛生士会 古賀 直子DH (日本DH会認定DH) | 福岡市健康 づくりセンター “あいれふ” 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 |
| | | ◎アセスメント・個別計画の実際 | Bf 2 | 福岡県歯科衛生士会 橋爪 和恵DH | |
| | | ◎口腔機能向上サービスの個別対応 口腔清掃支援・機能訓練 | Bf 2 | 福岡県歯科衛生士会 原口 公子DH | |
| | | ◎介護施設スタッフとの連携 | Bf 1 | 福岡県歯科衛生士会 天本 和子DH (日本DH会認定DH) | |

◆受講料：無料（但し、テキスト代として¥2,000 申し受けます）

申し込み締め切り

平成22年7月11日（日）

締切後受講票をファックスします

定員 40名※必ず申込が必要です

お問い合わせ先

月・水・金 10:00~16:00

(社) 福岡県歯科衛生士会

電話(092) 741-6512

申し込み方法

裏面の申込書に必要事項を記入の上FAXまたは封書
でお申し込みください。

※DH会に入会していない人は、会員番号欄に「非会員」と記入してください。

申し込み先

〒810-0041 福岡市中央区大名1-12-43

(社) 福岡県歯科衛生士会 在宅活用研修会宛

FAX (092) 741-9036

F A X (092) 741-9036

平成22年度 福岡県歯科衛生士会 在宅歯科衛生士活用事業

初心者のための口腔ケア研修会の申込

(介護予防のための口腔機能向上について)

8月1日・22日の口腔機能向上研修会を申し込みます

◆会場：8月 1日：福岡県歯科医師会館：福岡市中央区大名1丁目12番43号

8月22日：福岡市健康づくりセンター等複合施設（あいれふ）福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号

◆お問合せ先：(社)福岡県歯科衛生士会 在宅活用研修会担当 電話092-741-6512

| | |
|----------------|--------|
| 氏名 | |
| 住所 | |
| 電話番号 | |
| 昼間の連絡先 | 携帯・勤務先 |
| F A X 番号 | |
| 歯科衛生士会 会員番号 | |
| 備考 | |

*福岡県歯科衛生士会記入用項目です

| | | | | |
|--------|-------|---|-----|--|
| 受信日 | 平成22年 | 月 | 日 | |
| 受信番号 | | | | |
| 受講票送信日 | 月 | 日 | 担当者 | |
| 名簿作成日 | 月 | 日 | 担当者 | |
| 備考 | | | | |

平成22年度福岡県歯科衛生士会在宅歯科衛生士活用事業

初心者のための口腔ケア研修会の申込受付票

介護予防のための口腔機能向上について

| | |
|------------------|---|
| | 様 |
| 8月1日・22日(日) 受付番号 | 番 |
| 備考 | |

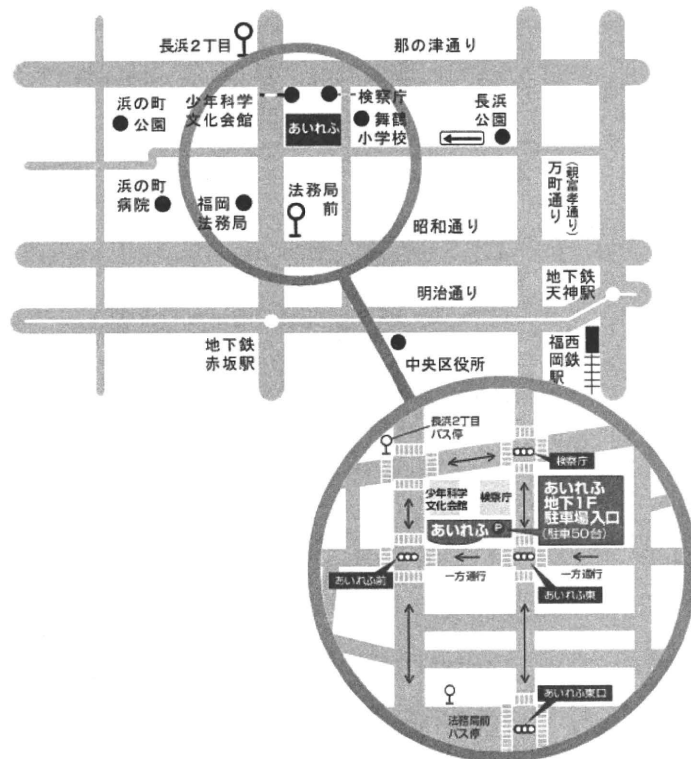
研修会に参加される方へ

- ・全日程ともに受付開始は、 9：30からおこないます。
- ・参加費は各回の当日に受付にてお支払いください。
- ・会場へは公共の交通機関でお越しください。（駐車場はありません）
- ・欠席される方はお早めにご連絡ください。
- ・昼食は各自ご準備ください

8月1日：歯科医師会館地図



8月22日：あいれふ地図



お問い合わせ先 社団法人 福岡県歯科衛生士会

〒810-0041 福岡市中央区大名 1-12-43 福岡県歯科医師会館内

電話(092) 741-6512月・水・金 10:00~16:00 FAX (092) 741-9036

当日の緊急連絡先：080-3901-6512（歯科衛生士会の携帯電話）

口腔機能向上のための研修会

8月1日

| 時間 | 内容 | 講師 |
|-----|--|-----------------------------|
| 15分 | DVD 第1章「口腔機能向上サービスの意義と歯科衛生士」 | |
| 60分 | 介護予防での歯科衛生士の役割 制度と歯科衛生士の役割 介護保険とは ・歯科衛生士が行う内容 ・介護予防対象者 ・口腔機能向上加算の介護報酬 ・対象者の選択・評価方法 ・留意点 | 九州歯科大学口腔保健学科 教授 千綿 かおる先生 |

| | | |
|------|---|-------------------------------------|
| 80分 | 口腔機能サービスの実際 DVD 第3章「口腔機能向上サービスの実施展開」(24分) モデル事業を実施して・・・内容紹介 | 福岡県歯科衛生士会 江崎カヨコDH (日本DH会認定DH) |
| | 昼食 | |
| 180分 | 高齢者の口腔機能向上 加齢変化： 摂食嚥下障害の基礎知識 | 原土井病院 岩佐 康行先生 |

8月22日(日)

| 時 間 | 内 容 | 講 師 |
|------|---|-------------------------------------|
| 90分 | アセスメント・個別計画について アセスメントと個別計画の進め方 アセスメント実習 | 福岡県歯科衛生士会 古賀 直子DH (日本DH会認定DH) |
| 90分 | アセスメント・個別計画の実際 症例紹介(2例)・・・30分 橋爪DH 個別計画の実際演習・・・60分 古賀DH 橋爪DH | 福岡県歯科衛生士会 橋爪 和恵DH 古賀 直子DH |
| | 昼食 | |
| 120分 | 口腔機能向上サービスの個別対応 機能訓練と口腔清掃支援 口腔清掃支援(スポンジブラシによる清掃実習) | 福岡県歯科衛生士会 原口 公子DH |
| 60分 | 介護施設スタッフとの連携 DVD第2章「口腔機能サービスの体制づくり」(15分) スタッフとの連携と歯科衛生士の役割 「口腔機能向上維持加算」の制度説明 | 福岡県歯科衛生士会 天本 和子DH (日本DH会認定DH) |
| 15分 | オリエンテーション 研修会受講者アンケート・ヒアリハットアンケート回収 登録票・求職票・施設研修申し込み票の提出の確認 | 担当理事 |

平成 22 年度 施設研修実施要領

実施時期；平成 22 年 10 月～12 月 毎月 1 回

実施内容：アセスメント・口腔機能向上サービス等

申込資格；・求職票を提出した方

・施設まで、ご自分で行くことができる方

申込方法；申込書に記入し、福岡県歯科衛生士会にファックス下さい。

F a x 0 9 2 - 4 0 6 - 9 2 0 0

※ 研修者の受け入れ人数には制限がありますので先着順とさせていただきます。

※ 研修日につきましては、施設からの指定日になりますので、

9 月に調整の連絡をさせていただきます。ご了承ください。

申込書

| | |
|-----------------|---|
| 名前 | |
| 住所 | |
| 電話 FAX 携帯 | |
| 連絡先 | 日程の調整など連絡が 10:00～17:00 にできる連絡先を教えてください 携帯 ・ 上記の電話 ・ 上記の FAX ・ 職場 ・ その他 |

ご希望の施設に○印をしてください。

| | | | |
|--|-------------------------------|--|------------------------|
| | ディケアセンターおたっしゅクラブ東福岡 福岡市福岡町 | | |
| | ディサービスセンターゆずりは 福岡市中央区荒戸 | | 生協ディサービス虹の樹 久留米市野中町 |

申込みは、8 月末日までにお願いたします。

(社) 福岡県歯科衛生士会